

か せ やまじょう
鹿背山城

南山城最大のやまじろ：東西400m、南北300m、標高135m、比高90m、15C中~16C中頃：室町~戦国時代、興福寺が築城、松永久秀が防衛拠点として改修、やまじろの醍醐味(主郭(曲輪)、畝状空堀群、堀切、切岸)、市民団体が整備・文化活動

櫓 やぐら
本来は弓矢を常備する防御施設だったが、近世城郭では物見や射撃用として建てられた

土塁
曲輪の周囲に築かれた堤状の土盛り

曲輪
くるわ

井楼櫓
木材を組上げただけの仮設の櫓

掘立柱建物
築城時に伐採された材木を用いた簡単な小屋で、居住や倉庫などに用いられた

土橋
堀を横断するために設けられた土の堤

切岸
人工的に削り込んだ斜面

堀切
尾根を切断して尾根筋からの侵攻を防ぐ

畝状空堀
縦堀を連続して並べ敵軍の横移動を妨害する

柵形虎口
虎口(曲輪の出入り口)に設けられた防御施設。四角いスペースに侵入した敵兵に前面と両側面の三方向から一斉射撃を仕掛けることができる

豎堀
山の斜面に対して垂直に掘り込んだ空堀

根小屋
平時の住居

山城の模式図
中世の城は、守りに有利な山城が多かった。地形を利用しながらさまざまな防衛施設を築いたが、城主の居館や生活の場はなく、兵の駐屯のための小屋があるだけだった(イラスト：板垣真誠)

堀障子
堀の底を障子のように土壁の壁で区画し、敵が堀の中で自由に動き回ることを防いだ

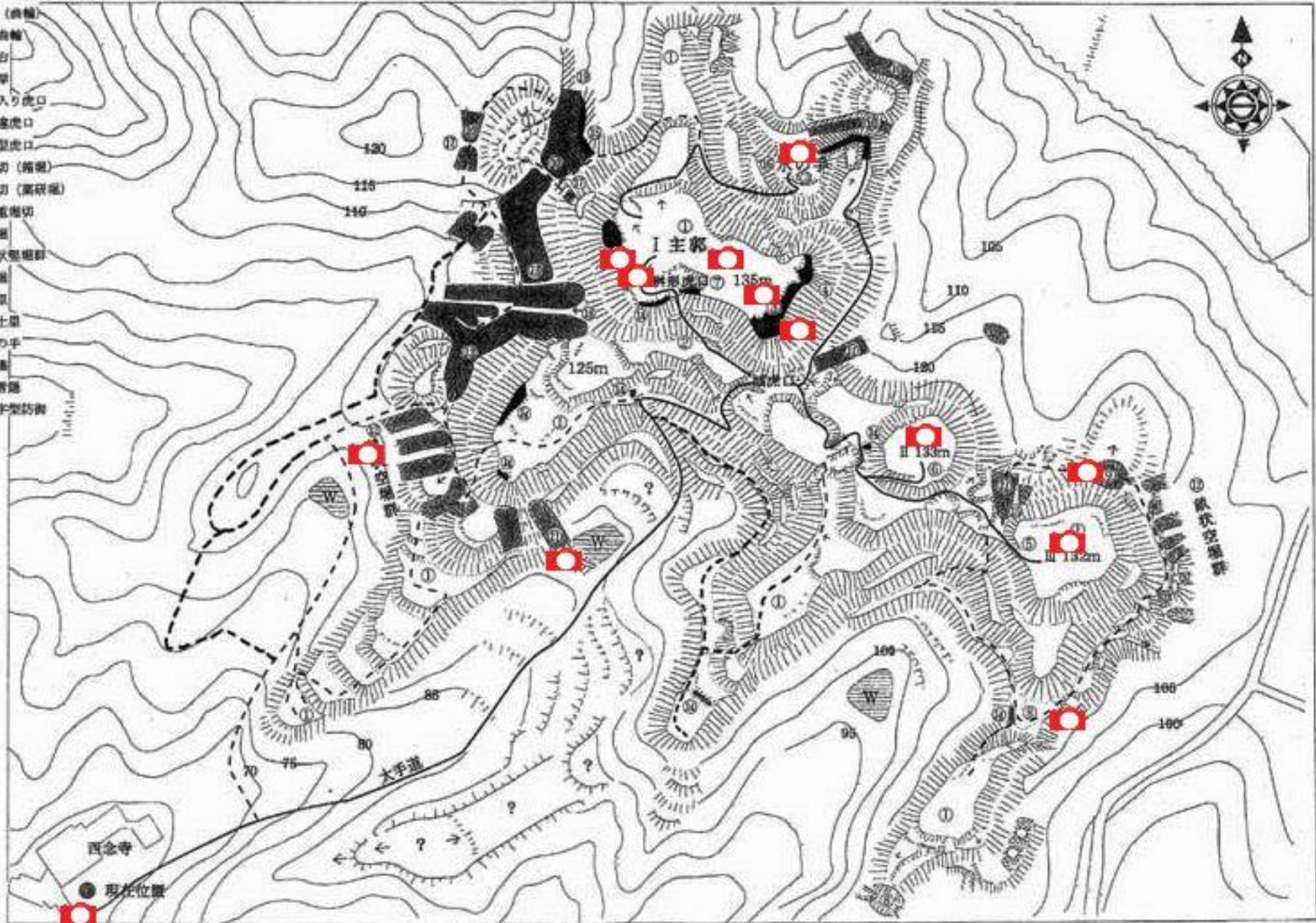
柵列
曲輪の周囲を防御するために設けられた

馬出
虎口の前に設けられ、攻撃と防御の両面を兼ねた小曲輪



鹿背山城の防壁施設

- ①郭(曲輪)
- ②腰曲輪
- ③槽台
- ④切岸
- ⑤平入り虎口
- ⑥喰違虎口
- ⑦桁型虎口
- ⑧堀切(箱堀)
- ⑨堀切(葉研堀)
- ⑩二重堀切
- ⑪竪堀
- ⑫畝状竪堀群
- ⑬横堀
- ⑭土塁
- ⑮竪土塁
- ⑯水の手
- ⑰土橋
- ⑱武者隠
- ㉑Y字型防壁



鹿背山城跡配置図

木津の文化財と緑を守る会



- ①郭(曲輪)
- ②腰曲輪
- ③槽台
- ④切岸
- ⑤平入り虎口
- ⑥喰違虎口
- ⑦桁型虎口
- ⑧堀切(箱堀)
- ⑨堀切(葉研堀)
- ⑩二重堀切
- ⑪竪堀
- ⑫畝状竪堀群
- ⑬横堀
- ⑭土塁
- ⑮竪土塁
- ⑯水の手
- ⑰土橋
- ⑱武者隠
- ㉑Y字型防壁